

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

・ この法人は、子供から大人までを対象に、現代アート資料の調査研究事業、展示やイベント・ワークショップなどの教育事業、現代アートをより身近に感じるためのプロダクト事業を行い、遠くにある様に思われがちな現代アートを、近くにあるように見たり感じたりできるインターフェース：望遠鏡として活動し、個々人の創造性を高めることで豊かで幸福な世界への推進に寄与することを目的とする。

- ・ 清里現代美術館（2014年閉館）は個人美術館でありながら、コレクションの常設展示を通して現代アートに馴染みの無い方達も含め、多くの人々に対し現代アートを普及をしてきた実績があります。
その膨大な蔵書・資料の散逸を防ぎ調査・研究、公開、教育的事業での運用。
また、清里現代美術館のメインのコレクションであったヨーゼフ・ボイスの「人間は誰もがアーティストである」「芸術＝資本」「社会彫刻」という概念を事業を通して社会に実装実現していくことは、現代、様々な社会問題が山積し低迷する社会情勢の中で、自らの人生にも惑う人々に生きる希望の灯火を照らすことになるでしょう。これらは文字通り、不特定多数の人々の利益に寄与すると考えられます。
- ・ 任意団体や会社ではなく、NPOとして公共性と透明性を打ち出すことで幅広い層の人々の協力や、新しい視座・価値観で現代美術の普及に努められ得る可能性があること。
NPO化して活動することは、今は存在しないものの清里現代美術館らしい、またテクノロジーが発展した現代だからこそできるコレクションの運用であり、特定非営利活動法人の設立が望ましいと考え、法人を設立します。

2 申請に至るまでの経過

この度設立申請するNPO法人の役員・会員のメンバーでは既に2023年5月清里現代美術館のアーカイブブック第一巻を出版しています。

清里現代美術館は個人美術館でしたので、その活動期間にコレクションを書籍にまとめる事が人的・資金的にできないでございました。蔵書や資料をまとめて預かった理事長と理事・会員ら有志のクリエイターが本にまとめる必要を感じクラウドファンディングで資金を集め、多くの方に支援をいただき出版することができました。

この支援者の特徴は清里現代美術館を訪れたことの無い若い世代が中心でした。

資金が潤沢にあつての出版でないことは明白で、本にまとめたいという強い意志を受け取った若い方達が心を寄せてくださり、共に出版体験を共有するようなプロジェクトになりました。結果アーカイブブックでありながら、アートブックとしては独特な雰囲気が高い、国内・海外の有名な書店でも取り扱われる本となりました。

また、このアーカイブプロジェクトは、アジア随一と言われるTOKYO ART BOOK FAIR 2023

(TABF) においてEXHIBITIONとして取り上げられ清里現代美術館の資料と共に紹介されました。本の出版までの経緯を写真と共に紹介するトークイベントも開催されました。

東京都現代美術館で開催されたTABFのこの展示は国内外の人々に大変好評を得ることができました。

閉館してもう存在しないものの、今多くの人が共感を寄せる清里現代美術館の精神

それは30年以上前に不可能を可能にした清里現代美術館のメンタリティとインディペンデントな活動の可能性を感じ取ってもらっているからではないか？

また、このアーカイブブック第一巻が刊行された事象そのものが、多くの人々の人生に希望を見出すことになったのではないか？

現代のテクノロジーを使えば、残された資料を使って、個々人の可能性、誰もが社会彫刻家としての展望と希望を持って生きていける明るい未来に寄与できるのではないか？

NPO法人Telescopeは、混迷する社会の中で迷う人々に、個々人が自らの創造性・可能性を見出す望遠鏡の様な役割を担っていきたいと考えます。

アーカイブブックの出版とともに、その本ができていく過程を会員やより多くの皆さんと共有し、また清里現代美術館の資料を運用した事業を通し希望や喜びを生む事業を核として参ります。

清里現代美術館の残した精神、蔵書資料を運用し、共に事業を興して社会を美しく発展させて参りましょう。

ご賛同いただける皆様のご理解と幅広いご支援をお願いいたします。

2024年2月 21日

NPO法人 Telescope

氏名 廣瀬友